

報道機関関係各位様

NPO「手元供養協会」発足のお知らせ

～変わる墓 新しい供養のカタチ～

団塊の世代を中心に現代供養とも言える「手元供養」が
伝統的な仏壇・位牌・お墓に加え、新しい供養として注目を浴びている。
時代に合った葬送文化として、自然発生的に生まれた、
この「手元供養」商品を扱う企業が一堂に会し
この度“手元供養文化”の社会化に向け、
日本初のNPO手元供養協会を設立いたしました

記

NPO「手元供養協会」を設立日：平成17年6月15日

NPO「手元供養協会」発足記念イベント

「手元供養展」(東京・大阪)で7月開催

遺灰やお骨でつくるダイヤモンドやオブジェ、プレート。分骨を入れる石や陶器のオブジェ、
お骨の一部を入れるペンダントや小壺等が多数展示される他、新しい葬送情報が得られます。

<大阪会場>

日時：7月1日～7月10日

場所：ワイズプリア心齋橋店

大阪府中央区南船場4丁目10番13号 HUQUE BLDG 3F

TEL: 06-6281-1501 FAX: 06-6281-1502

内容：手元供養商品の展示、永代供養墓、樹木葬や散骨の情報紹介
入場無料

<東京会場>

日時：7月中旬～7月末(予定)

場所：未定

内容：手元供養商品の展示、永代供養墓、樹木葬や散骨の情報紹介
入場無料

<手元供養が生まれた背景>

死生観、供養観の変化

宗教離れ。宗教的な供養を望まない人にとって、従来の形式に替わる供養の対象が求められた。
増える自然葬(散骨)。狭く暗い墓地はいや、自然に還ることを求める人たちの生きた証として。
遺骨愛着者の増加。石原裕次郎夫人の「遺骨ペンダント」、『世界の中心で愛をさけぶ』のような大
切な家族や恋人を亡くし、故人の遺骨を手放せない、生きがいにもなっている人たちの支持
環境問題的背景

2003年、ついに年間死亡者数が百万人を越え、2006年には出生数を上回る多死社会に突入。

この先日本の山は墓地のためにいくつ切り開かれるのか？

社会的背景

少子化(娘一人)や単身者の増加。継承を前提とする“お墓制度”に適応できない家族の増加。後
継者に負担を掛けたくない。

長引く不景気と、介護費用も嵩み供養に対しお金が掛けられない。

マンションなどの洋風生活のため仏壇を置かない家庭が増えている。手元供養は場所をとらな
いことから支持されている。

<お問い合わせ先>

(手元供養協会東京事務所)

東京都墨田区立川 3-6-15-802 (株)イターナルジャパン内

TEL 03-3846-4380 eternalp@coral.ocn.ne.jp 担当：野澤

(手元供養協会関西事務所)

京都市南区吉祥院内河原町3番地 京都陶芸工房103 (有)博國屋内

TEL 075-315-3370 joji@hirokuniya.com 担当：山崎

<参加企業>

ウイルライフ(株)(東京都)

(株)エターナルジャパン(東京都)

(有)五峰産業(香川県)

(株)佐々木木工(広島県)

(有)博國屋(京都府)

ライフジェム ジャパン日本支社(東京都)

(株)レイセキ(大阪府)

(アワイ瀬)